

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1293000038		
法人名	株式会社 オールプロジェクト		
事業所名	つばさグループホーム ふくふく		
所在地	千葉県君津市貞元495番地		
自己評価作成日	20014/1/13	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成26年2月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者様の笑顔大切に、個々のペースに合わせ、その人らしい生活が長く送って頂けるような支援を心がけています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>和を基調とした民家のような外観の「グループホームふくふく」は、木造を活かした温かみのある落ち着いた雰囲気の施設となっている。癒しの空間とされる中庭は、デイサービス利用者との交流の場や散歩時の散歩コースとなっており、入居者の楽しみとなっている。入居者の個々のペース・好みを尊重した支援を意識しており、意向・生活歴に合わせた支援の工夫や嗜好品の提供等、入居者が充実した生活を送れるよう配慮している。法人内で連携・協力を通じて、保育園児や地域の学生との世代間交流・地域ボランティアとの交流等が行われており、入居者の生活の活性化につながっている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の全体ミーティング時に社内の理念や基本方針の復唱を行っている。	「笑顔と心づかいを大切にします」と言う、法人理念を掲げており、施設入口やパンフレットに明文化している。職員の入職時に理念・方針を説明すると共に、入居者の笑顔を気に掛けるよう心掛け、理念に基づいた支援の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の加入には至っていないが、地域の行事や活動には毎回複数の職員が参加したり、地域のお祭りの見学に出かけている。	パンフレット等で随時、見学や相談を受け付けていると共に、地域行事には積極的に参加し交流を図っている。また、系列の特別養護老人ホームや併設のデイサービス等を介して、ボランティア・職場体験の受け入れや介護者研修等に関わり、地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	君津市生活介護支援サポーター養成事業の受託に始まり、認知症キャラバンメイト講師・認知症メモリーウォークに協力しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動内容やホームの状況などを報告している。意見やアドバイスを頂き、サービスの向上に努めている。	民生委員・市役所職員・利用者・家族等を構成員として、3か月に1回、運営推進会議を開催している。会議では、施設の活動報告や意見・情報交換を行い、施設の理解促進及びサービスの質の向上に活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂き、ホームの実情をお伝えしながら意見交換を行ったり、アドバイスを頂き、サービスの向上に努めている。	日頃から市に対して、業務における相談や報告を行い、連携を図っている。君津・木更津市認知症対策連絡協議会に参加しており、会議を通じて、市と意見・情報交換を行い、困難事例及び問題の早期解決に取り組む体制を構築している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体ミーティングなどで身体拘束排除の研修を行い、拘束をせずに済む介護について理解を深めている。施錠はしている状態だが、生命の安全を第一とし、ご家族にもご理解して頂いている。	身体拘束排除におけるマニュアルの整備や研修の実施・参加を通じて、職員への理解を深め、施設として原則的に身体拘束を行わない方針を取っている。困難事例においては、職員間で検討し、身体拘束をせず、適切な支援方法ができるよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や全体ミーティングの研修プログラムに組み込まれており、虐待防止について学び、実践している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間研修プログラムに組み込まれており、管理者・職員共に学び理解を深め、支援できるよう努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書の説明を行い、その場で不安に感じる点についてお答えし、ご理解頂くと共に、ご納得頂いて書名・捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本社・ホームともに窓口を設けている。利用者様お一人おひとりに担当職員がおり、ご家族に報告を行ったり、家族からの要望等を管理者に報告する等、日頃からコミュニケーションをとるよう心がけている。	家族の面会時・電話連絡時に家族からの意見・要望等を直接確認している。入居者一人ひとりに担当職員を設け、家族とのコミュニケーションや情報交換が円滑に行えるよう工夫している。また、家族同士の懇親会やアンケート調査を実施する等、家族が意見を言いやすい環境づくりにも努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、全体ミーティング時や個別に機会を設けて意見を言える機会を設けている。	定期的にユニット毎・全体の会議を設け、職員からの意見・提案等を確認している。法人の代表・管理者と直接会話できる体制を設けており、職員が気軽に意見や思いを伝えられるよう配慮している。また、定期的に職員の慰安行事や同業者との賀詞交換会等が実施されており、働きやすい職場環境の整備にも努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別の意見聴聞機会を設け、職員の環境改善を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時研修を始め、社内研修等で育成を図ると共に、現場での取り組みを重視している。外部研修もあるが、機会が少ない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	賀詞交換会への参加、介護支援専門員研修等の活動を通じてネットワークの構築を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に施設内見学をして頂く機会を設けたり、ご家族やケアマネジャーからの情報収集を行い、信頼関係が築けるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時にご家庭での過ごし方や習慣を伺うと共に不安点や要望を聞き、関係作りに努めている。 面会時にできる限り要望を伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人や家族との関係性・状況を把握し、できる限り本人に合った支援ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活に近い状態で過ごして頂けるよう家事を一緒に行ったり、季節ごとの行事も利用者様主導で相談しながら、やれることを見つけやって頂くよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、近況報告書を送付したり、面会時や電話で相談させて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の制限はなく、馴染みの方の面会が続けられるよう支援している。	知人・友人等の訪問等は自由となっており、馴染みの関係継続に配慮している。また、併設のデイサービスとの交流が行われており、馴染みの友人と話をすることも可能となっている。その他にも地域行事に参加し、外部の人との交流や馴染みの習慣・文化を楽しめるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	談話や共同作業を行う中で良い関係が築けているので、継続できるよう職員は見守ったり、時には間に入り支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要とする利用者やご家族に対しては、これまでのお付き合いを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り本人の意思を主張できるよう意見を聞いたり、思いを引き出すよう努力はしているが、現状全てを叶えられてはいない。	契約時に本人・家族に、生活歴・身体状況・意向等を確認し記録していると共に、必要に応じて、ほかサービス事業所や医療機関からの情報提供を受け、より詳細な情報の把握に努めている。入居者の様子や情報は、記録や連絡ノートを活用しながら、全職員へ周知し、常に新しい情報を共有できるよう工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に聞き取りやご家族にアンケート用紙に記入して頂き、情報収集を行ったり、入居後にご家族とコミュニケーションを図りながらお聞きしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や申し送りを行ったり、利用者個々についてのカンファレンスを開き、意見交換をし、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人。家族にご意見を伺い、ユニットカンファレンスやミーティング時に意見を出し合い、現状に即した支援となるよう作成している。	定期的な会議を開催し、入居者の情報・検討結果を踏まえ、介護計画を作成している。また、必要に応じて、家族との話し合いの場を設け、より意向に沿った介護計画の作成に努めている。定期的に介護計画の評価を行い、必要に応じて、見直しを行っている。常に、入居者の状態変化を確認し、現状に即した介護計画の作成を目指している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個人記録に記入し、申し送りを確実にし、情報共有するとともに、カンファレンス時意見を出し合い新しい試みを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	突発的なニーズであっても、可能な限り対応できるよう心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市内の子育て支援センターや隣接するグループ施設へ訪れ、交流の機会を設けたり、職員とともに外出し、気分転換を図れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望に沿ったかかりつけ医があり、定期的な往診を受けると共に、突発的な場合でもスムーズな対応ができるような体制を作っている(医師・薬剤師とも24時間オンラインで対応)	希望のかかりつけ医への受診が可能となっており、必要に応じて、職員が通院の付き添いを行っている。定期的に内科の往診が行われていると共に、今年から、整骨院の訪問治療もスタートし、手厚い医療支援を行っている。緊急時・必要時には、併設のデイサービスの看護師に協力を仰ぎ、適切な支援が行えるよう体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設するデイサービスや特養に連絡を取り体調の変化に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に一緒に伺い、介護サマリーなどで情報を提供。また、退院時には、看護サマリーを頂き、入院中の状態把握や帰所後の支援の参考にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の思いを尊重し、可能な限りの支援を行い、必要に応じてかかりつけ医に意見を求め話し合いのもと方針を決定するよう努めている。	契約時に終末期・重度化における方針を説明し、了承を得ている。必要時には、家族の意向や医師の意見を基に、話し合いを行い、入居者・家族の希望に沿った支援が行えるよう体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成し、全職員に周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間訓練実施での問題点や対応策を代表者を含め話し合い、解決できるよう進めている。地域の方々との共同訓練までは至っていないが、今後実施していけるよう努力していきたい。	スプリンクラー・火災報知機・自動通報機等の消防機器を設置すると共に、年2回、避難訓練を実施し、防災対策を講じている。訓練では、夜間想定や設備点検・併設施設との合同訓練等、多種多様な訓練を実施し、職員の防災意識の向上を図っている。また、訓練の反省を基に、避難時の搬送器具を準備する等、適切な対策を講じている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄時等プライバシーの確保に注意し、不快な思いをしないよう声のかけ方やタイミングにも配慮している。	「指示的な言語は使わず、クエスチョンのかかけをする」と言う方針を事務所内に掲示し、入居者の尊厳に配慮した言葉かけを周知している。また、接遇やプライバシー保護における研修・指導を実施し、職員全員への理解を深めている。入居者の希望を確認し、同棲介助を行う等の工夫をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の言動や表情、生活歴から思いをくみ取れるよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせてできる限り希望に添えるよう努めている。すべてではないが、それぞれの方の日課(生活ペース)が構築されてきている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には本人の意思を尊重しているが、必要に応じ職員が支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に合わせて盛り付けや後片付けを手伝って頂いている。職員は毎食、同じ食卓と一緒に食事をしている。季節感を感じられる献立を提供し、雰囲気も味わって頂いている。	入居者の希望や能力に応じて、食事の準備や片付けを共同で行っている。献立においては、法人の管理栄養士が作成しており、栄養バランスに配慮した食事提供を行っている。また、行事食の提供・外食会や手作りおやつの実施等を定期的に行い、食に対する楽しみを提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食摂取量のチェックを行ったり、その方に合わせた形態で摂取しやすい工夫を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けにて口腔ケアを促している。自分で行うことが難しい方には職員が介助やチェックを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を用いて排泄パターンを把握できるようにし、必要に応じ声掛けや誘導を行っている。トイレでの排泄を目指している。	排泄チェックリストを作成し、入居者個々の排泄パターンを把握した上で、声掛けやトイレ誘導を行い、適切な支援を行っている。また、最終排便日の記録を行い、状況に応じて、医師や看護師と相談しながら適切な排便コントロールを行っている。日頃から、運動や食事を工夫し、便秘の予防に努める等の工夫もしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを毎日行い、必要に応じて、かかりつけ医に相談し、その方に合った方法で予防に努めたり、体操を日課にし、体を動かして頂いている。また、水分摂取量にも気を配っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本、毎日の入浴となっているが、体調や要望に合わせて対応。拒否をした場合は無理に行わない。また、入浴表を付け、拒否が多い方でも入浴の間隔が開かないよう注意している。	基本的に毎日入浴を実施しており、希望や体調に応じて、回数や時間等を柔軟に支援している。必要に応じて、清拭・シャワー浴・足浴等を実施すると共に、入浴チェック表を設け、入浴機会を適切に確保しており、入居者の清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活パターンや身体状況に合わせて、本人のペースで休息を取って頂けるよう支援している。室温等にも気を配り、眠りやすい環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤による指導やアドバイスを受けたり相談に乗って頂いている。服薬チェック表でない服を管理したり内服一覧表で全職員が薬の内容を把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に生活面での役割を作っている。外出や季節の行事等を実施し、気分転換を図って頂けるよう支援している。飲酒等も認めている。		

【千葉県】グループホーム ふくふく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に応じ、散歩や外出の機会を作り、気分転換を図っている。自宅への一時帰宅や墓参りを希望する利用者があるが、家族の理解を得ることが難しく実現に至っていない。	体調・天候・希望に応じて、散歩・買物・ドライブ等を実施しており、戸外に出る機会を設けている。施設敷地内には、デイサービス・特別養護老人ホーム・整備された中庭があり、周辺の散策や外部との交流等、施設の外に出て楽しく過ごせる環境が整備されている。定期的に外出会や合同行事を企画・実施し、入居者の楽しみにつながっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止のため金銭管理は事務所で一括して行っている。外出時等本人の希望に応じて使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に沿って電話を掛けたりと随時支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度・音・光に配慮したり外出時の思い出(写真)を掲示し、楽しく過ごして頂けるよう努めている。座席なども特に固定せず、気の合う方同士で座って頂いたりとその時々で対応している。	施設は和を基調とした民家風の外観をしており、木造を活かした温かみのある落ち着いた雰囲気となっている。共有スペースには、椅子・ソファ・和室等が設けられ、入居者が自由にくつろげる環境となっている。また、清掃・衛生管理を徹底しており、感染症・食中毒の発生予防に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室・和室・ソファ・ウッドデッキなど自由に利用できるスペースを設けている。		

【千葉県】グループホーム ふくふく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の持ち込み自由で使い慣れたものを持ってきて頂いたり、ご家族に用意して頂いている。落ち着ける雰囲気になるよう努めている。	馴染みの家具等を持ち込むことが可能となっており、居心地良く生活できるよう配慮している。また、希望に応じて、布団を敷く事も可能となっており、入居者の生活歴に配慮した居室づくりがなされている。全居室にエアコンが設置されており、適切な空調管理がなされていると共に、鍵が設置されプライバシーの確保がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「出来ること」「分かること」「興味のあること」を把握し、安全で自立した生活が送れるよう支援している。こちらからの押し付けではなく、できることをやって頂いている。		